

(平成19年4月分)

部 門	市 況 の 概 要
野 菜	<p>4月期の野菜の市況については、3月までの暖冬傾向から転じて4月に入ってから寒の戻りが影響し、根菜類、葉菜類では、これまでの前進出荷が足踏みした状況となったが、果菜類の中心産地では概ね前進出荷傾向となった。</p> <p>結果として、前年同期を4%上回った。</p> <p>価格は、概ね順調な入荷状況にあつて、安値基調が続き前年同期を9%下回った。</p> <p>品目別には、西洋ニンジン、キャベツ、ほうれんそう、きゅうり、なす、たまねぎが入荷増の単価安となり、長大根、ピーマン、ばれいしょでは、入荷量は前年並みで単価安となった。さらに、レタスは、入荷減の単価高となり、タケノコ、白菜では入荷減の単価安となった。トマトは、入荷増ながら単価は前年並みとなった。</p> <p>根菜類は、入荷は前年並みで、価格は21%安となった。</p> <p>葉菜類は、入荷は前年並みで、価格は8%安となった。</p> <p>果菜類は、入荷が17%増加し、価格は10%安となった。</p> <p>土物類は、入荷は5%増加し、価格は21%安となった。</p>
果 実	<p>4月期の果実の市況については、18年度産となるりんご、柑橘類、イチゴ類の入荷量が少なく、19年度産となるスイカ、メロン類は暖冬の影響から生育も順調で、品質も良好であり入荷量は増加傾向となったが、結果として入荷量は前年同期を14%下回った。</p> <p>価格は、入荷量の減少によって前年同期を17%上回った。</p> <p>品目別には、甘夏、イチゴ、ふじりんご、アールスメロンが入荷減の単価高で推移し、アムスが入荷増の単価安で推移した。また、スイカは入荷増ながら単価高で推移した。</p> <p>柑橘類は、入荷が29%減少し、価格は67%高となった。</p> <p>りんごは、入荷が9%減少し、価格は17%高となった。</p> <p>いちごは、入荷が12%減少し、価格は3%高となった。</p> <p>メロンは、入荷が27%増加し、価格は5%安となった。</p> <p>スイカは、入荷が31%増加し、価格は11%高となった。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
<p>【根菜類】</p> <p>長大根</p> <p>洋人参</p> <p>たけのこ</p>	<p>長崎，滋賀を主力に鹿児島，千葉からの入荷。各産地ともに生育は良好で潤沢な入荷状況であった。結果的に入荷量は，前年並みとなった。価格は，全般的な野菜の安値基調から前年同期を21%下回った。</p> <p>長崎，徳島を中心に鹿児島からの入荷。暖冬により各産地ともに生育が良好で，2L，Lサイズの太物も多く，順調な入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を7%上回った。価格は，入荷増により前年同期を40%下回った。</p> <p>京都，徳島を中心とする入荷。春先から雨量が少なく予想を下回る入荷量となった。結果として，入荷量は前年同期を15%下回った。価格は，入荷量が少ないながら，早魃による品質低下から，結果として，前年同期を7%下回った。</p>
<p>【葉菜類】</p> <p>はくさい</p>	<p>茨城，九州産地の春物を中心に愛知，兵庫の秋冬の残量，下旬から和歌山，岡山の春物が入荷。秋冬ものは，暖冬傾向から前進出荷となったため，今月は入荷が減少してきた。また，春物は3月下旬からの低温早魃によって，出荷が遅れ入荷量が減少した。結果として前年同期を15%下回った。価格は，入荷量が減少したものの，長期化する加工業務・一般消費の低迷から，前年同期を29%下回った。</p>
<p>キャベツ</p>	<p>愛知，神奈川，兵庫を中心とする入荷。各産地ともに，暖冬傾向から生育もよく，大玉傾向で前進出荷となった。結果として前年同期を10%上回った。価格は，寒の戻りから中旬にかけて相場が上昇したが，全体的な入荷量の増加に伴い，結果として，前年同期を23%下回った。</p>
<p>ほうれんそう</p>	<p>京都を主力に徳島，岐阜，滋賀からの入荷。各産地ともに作柄も良く順調な入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を11%上回った。価格は，入荷増に加え，遠地物での品質低下などもあり，下旬にかけて相場が上昇したものの結果的に前年同期を18%下回った。</p>
<p>レタス</p>	<p>長崎，兵庫，徳島，茨城を中心とする入荷。各産地ともに暖冬傾向から作柄は良好で前進出荷となったため，先月に引き続き入荷量は減少傾向で推移した。加えて，高温による病害虫の発生が目立ったことから結果として，入荷量は前年同期を12%下回った。価格は，入荷量の減少の中，加工業務，一般消費ともに引き合いが強くなり，高値での販売環境となった。結果的に前年同期を26%上回った。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
<p>【果菜類】</p> <p>きゅうり</p> <p>なす</p> <p>トマト</p> <p>ピーマン</p>	<p>宮崎，高知を中心に滋賀，福岡からの入荷。好天に恵まれたことから順調な入荷となり，結果として，入荷量は前年同期を18%上回った。価格は，入荷増と高値であった前年同期を15%下回った。</p> <p>高知，岡山を中心とする入荷。各産地とも作柄もよく，前進出荷となり，春もの産地を中心に順調な入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を18%上回った。価格は，入荷増によって，前年同期を9%下回った。</p> <p>熊本，福岡，三重を中心とする入荷。各産地とも前進出荷の中，病気の発生も少なく，順調な入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を18%上回った。価格は，入荷増ながら，3月までの品薄感による高値の影響が残り，安値に転じたものの結果的に前年並みとなった。</p> <p>宮崎，高知，鹿児島を中心とする入荷。各産地ともに作柄も良好で順調な入荷となった。結果として入荷量は前年並みとなった。価格は，前年並みの入荷ながら，高値推移であった前年同期を10%下回った。</p>
<p>【土物類】</p> <p>ばれいしょ （メーク含む）</p> <p>たまねぎ</p>	<p>北海道，鹿児島を中心とする入荷。北海道産の貯蔵物が減少していくなかで，鹿児島産は順調に入荷したが，結果的に入荷量は前年並みとなった。価格は，北海道産が小玉傾向であったことから，全体としては前年同期を7%下回った。</p> <p>北海道を中心に長崎，佐賀，兵庫からの入荷。北海道の貯蔵物が少なくなる中，九州産の新物は，前進出荷と大玉傾向から昨年を大きく上回る入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を14%上回った。価格は，入荷量の増加によって，前年同期を40%下回った。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
甘夏柑	<p>福岡を中心に熊本，愛媛からの入荷。柑橘類全般の不作により入荷量が減少し，結果として前年同期を14%下回った。</p> <p>価格は，入荷減と大玉比率が高かったことから単価高で推移し，結果として前年同期を38%上回った。</p>
ふじ （サン含む）	<p>青森のみの入荷。サンふじは，品質劣化の懸念から前進出荷となり，上旬で終了した。ふじは，下旬から本格出荷となったため，結果として入荷量は，前年同期を8%下回った。</p> <p>価格は，入荷減と前年同期が単価安であったことから，前年同期を9%上回った。</p>
いちご	<p>熊本，福岡，長崎，佐賀，大分，愛媛を中心とする入荷。各産地ともに出荷の終盤を迎え，徐々に減少傾向となった。結果として入荷量は，前年同期を12%下回った。</p> <p>価格は，入荷減によって前年同期を3%上回った。</p>
アールスメロン	<p>静岡，宮崎，高知を中心とする入荷。作付面積の減少から高知，愛知産が減少したため，結果として入荷量は前年同期を3%下回った。</p> <p>価格は，入荷減に加え，業務需要の増加から前年同期を3%上回った。</p>
アムスメロン	<p>熊本からの入荷。全般的な作付面積は減少傾向にあるが，生育がよく前進出荷となったことから，結果として入荷量は，前年同期を31%上回った。</p> <p>価格は，入荷増によって前年同期を5%下回った。</p>
すいか	<p>熊本を中心とする入荷。生育がよく前進出荷となったことから，結果として入荷量は，前年同期を31%上回った。</p> <p>価格は，入荷増ながら食味もよく，気温の上昇とともに購買意欲も高まり高値で推移した。結果的に，前年同期を11%上回った。</p>